

第8回 円山川流域委員会 議事録(概要版) 会議の概要

日 時： 平成 16 年 2 月 3 日(火)13 時 00 分から 16 時 30 分
場 所： 但馬地域地場産業振興センター2F 多目的ホール(豊岡市)

1. 開 会

庶務担当の㈱東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

3. 議事内容

3.1 報告

3.2 円山川流域の現状説明

- 1) 回答(前回の質疑に対する補足説明)：流域の概要と治水について
- 2) 現状説明：流域の環境と河川管理について

3.3 川合委員からの情報提供

- 1) 日本の降水量の変化
- 2) 都市型水害とその対策について
- 3) 森林と水循環

3.4 その他

- 1) 一般からの意見について
- 2) その他

4. 審議内容および決定事項

4.1 報告

庶務より、第6回委員会及び第7回委員会の審議内容及び決定事項について説明が行われた。

第6回円山川流域委員会(平成15年11月18日開催)

- ・円山川流域の現状について、第6回及び第8回の2回の委員会に渡って説明したいとの意向が、河川管理者より述べられた後、流域の概要と治水について、現状説明が行われた。
- ・上流域(県管理区間)の取り扱いについて、管理上の別け隔てなく円山川とその流域を考え、流域の全体像を理解した上で、本委員会の対象範囲である直轄管理区間の整備計画を考えていくことと、第7回委員会で現地視察を実施し、今後必要があれば、管理者である兵庫県に円山川の現状について、説明を求めていくことが了承された。
- ・上流域(県管理区間)の現地視察ルート(案)が示され、議論が交わされた結果、第7回委員会は上流域(県管理区間)の現地視察を行うこと、また、提示したルート(案)に「田路川(とうじがわ)と山林の林床」を加えることを検討した上で実施するという審議結果を得た。
〔提示した視察ルート(案)〕八木川・大屋川合流地点 和田山竹田地区 大路ダム 円山川源流域 建屋川 (大屋川下流部) 八木川
- ・情報の共有化の進め方については、勉強会の開催等を含めた今後の進め方について、庶務が委員全員にヒアリングを行うことが了承された。また、現地視察については、第7回委員会(計4回)で一応の区切りとし、今後は庶務が作成するルートマップによって、委員各自が視察に赴くこととなった。

第7回円山川流域委員会(平成15年12月18日開催)

- ・視察は、円山川の国管理区間よりも上流部の河川整備の状況、ダム、源流域、主要支川の現状等について行われ、管理者である兵庫県八鹿土木事務所及び委員からの説明に対して、一般参加者を含めて、質疑・議論が交わされた。視察した地点と順序は以下の通り。

<現地視察ルート>

八木川・大屋川と本川との合流点、 和田山竹田地区の整備状況、 大路ダム、 円山川源流域、 神子畑川・朝来町佐囊地区(田路川流域からの変更)、 建屋川、 八木川及びその上流域

4.2 円山川流域の現状説明

1) 第6回委員会の質問に対する回答：流域の概要と治水について

河川管理者より、第6回委員会での現状説明時に受けた「上流部の開発・改修と洪水の流出速度の関係」「浸水想定区域図に関する質問」「従来までの計画と環境に配慮した事例の矛盾」等の質問に関する回答が行われ、今後の課題を含めての質疑・議論が交わされた。主な意見・質問は以下の通りである。

主な意見・質問

- 出石川の河床は、昭和48年に比べて、2mくらい下がっているとのことだが、それは河床掘削の結果ではないのか。また、砂利採取の影響はあるのか。(藤田委員長)
出石川では、昭和48年以降、基本的に河床掘削も砂利採取も行っていない。その中で実質2m河床が下がっているのが現状である。(河川管理者)
- 河床はあまり変化していないとのことだが、平常時及び洪水時の流量は、過去から現在にわたって変化してきているのか。(上田委員)
本川筋では河床の変動がほとんど見られないので、平常時の本川の流量は余り変わっていないと思う。この平常時の流量の変遷については、また機会をいただければ、説明させていただく。洪水時には、洪水によって、雨の降り方、場所、強さが違うので、一概に増えているとは言えないと思う。(河川管理者)
洪水流量の変化については、伊勢湾台風などの大きい洪水ばかりではなく、もう少し頻度の高い洪水である程度精査していけば、もう少しわかってくるのではないかと思う。日頃の感覚というのは、結構そういったところに支配されていると思う。(藤田委員長)
- ひのそ島、菊屋島の掘削、低水路掘削などの考え方の根拠となっている計画高水流量を速やかに流すにはどうしたらいいかという従来型の考え方と環境面の重視というものが、まだきちりと統一されていないのではないか。(有本委員)
環境について配慮する一方で、計画高水流量に対応しようとするれば、大規模な掘削等の必要であるという矛盾をはらむと見られる可能性のある問題。この問題は河川整備の計画を立てる上で重要であり、またこの委員会に課せられた課題と思う。これらの点についてアイデアを出していくのが、委員会の次のステップだと思う。(藤田委員長)
- 人命に直接被害を及ぼさないような形での遊水地対策というのはどう考えているのか。農地も水田も宅地も同じような安全度に位置づけておられるのか。(前田委員)
そのような考え方について整備計画にどう盛り込まれてくるかという点も、委員会の課題として投げかけたい。(藤田委員長)
農地、宅地という形で安全度に差をつけることは、普通は行っていないが、地域住民の合意のもとで地役権設定を行い、田んぼを遊水地とさせていただいている例は必ずしも少なくはない。しかし、どれほど有効かということも含めて検討する必要があることと、そのような整備を進めていくかどうかについては、皆様方の意見も踏まえて考えていきたいので、この委員会の中で議論いただきたい。(河川管理者)

2) 現状説明：流域の環境と河川管理について

第6回委員会に引き続き、河川管理者より、円山川流域の環境と河川管理について現状説明が行われた。内容は「円山川流域の社会環境」「自然環境の現状」「水環境の現状」「水利用の現状」「維持・管理の現状」「広報・啓発活動」の6つの項目に分けられており、各項目の概要及び説明に関する主な意見・質問は以下の通りである。

円山川流域の社会環境

円山川流域の社会環境では、流域の人口と面積、土地利用の現状、主な産業、観光、舟運、円山川での催しについて説明が行われた。

自然環境の現状

自然環境の現状では、河川水辺の国勢調査の結果から円山川の生物に関する概要、外来種の状況、環境特性、環境保全への取り組みについて説明が行われた。

- 特定種の選定基準が環境省のレッドリストまでとされているが、兵庫県版のRDB(レッドデータブック)などを使って、もう少しきめ細やかな見方をする必要がある。(菅村委員)
兵庫県のRDB等は認識しているし、調査した中ではデータはとっている。ただ、今回説明するにあたっての特定種の定義ということで、このようにさせていただいた。(河川管理者)
- 兵庫県のRDBを中心にもう一度見直し、細かいデータを出していただきたい。(服部委員)

水環境の現状

水環境の現状では、水質の現状と経年変化、水環境に対する取り組み、流域の水文状況、近年の濁水状況について、説明が行われた。

- ・ pH が少しずつアルカリの側に振れてきているように思う。また、川の水がアルカリの方に振れるというのはどんなメカニズムがあるのか。(菅村委員、前田委員)
基本的には、6.5 から 8.5 の範囲内であれば、通常、生活環境項目としては大きな支障は出てこないということになる。メカニズムについてわかるようであれば、今後報告いただきたい。(藤田委員長)

水利用の現状

水利用の現状では、円山川の水利用量の現状について説明が行われた。

維持・管理の現状

維持管理の現状では、河川の利用・巡視・啓発活動・維持の状況と水防について説明が行われた。

- ・ 治水面を重視するのは当然だが、川をどう利用するか、住民に川をどう提供し、生活に、あるいはレジャーにどう使ってもらうかを整備計画の中に盛り込んでもらいたいと思う。(安森委員)
- ・ 円山川が本当に住民に利用されているのかどうか。流域内の何%ぐらいが利用され、その割合は他の河川と比べて順位的にどの程度なのか。(安森委員)
周辺人口が多い場合は多くなるだろうし、少ない場合利用頻度は低くなる。河川水辺の国勢調査では、実数調査をしているので、それをういて検討すれば、ある程度わかるかもしれない。(藤田委員長)
- ・ 河川利用では当然、内水面漁業等の観点もあるはずだが、漁業関係の資料がない。円山川を考える時は、その点も考えていく必要があると思う。(岡本委員)
内水面漁業の漁獲高等については、今後整理して示したいと思う。(河川管理者)
- ・ 運動公園や採草地の面積はどの程度あり、他の地域と比べてどうなのか。また、堤防植栽を行っておられるが、どのような植物を使って、年何回ぐらい刈り取りしているのか。(服部委員)
運動場は 7 万 7,000 m²程度、採草地は 59 万 m²程度利用いただいている。(河川管理者)
- ・ 早急に帰化植物、帰化動物の対策をしていかないと、議論している間に大変なことになることを憂慮している。(菅村委員)
国土交通省も外来種対策を進めているので、オオバクサやセイタカアワダチソウの群落の分布図など、もう少し細かいデータを出していただきたい。また、円山川水系の外来種対策について、方向性を持っているなら、次回出していただければと思う。(服部委員)

広報・啓発活動

広報・啓発活動では、コミュニケーション型行政の推進や出前講座などの広報啓発に関する取り組みについて紹介が行われた。

4.3 川合委員からの情報提供について

川合委員から「日本の降水量の変化」「都市型水害とその対策について」「森林と水循環」について、説明が行われた。主な意見・質問は以下の通り。

主な意見・質問

- ・ 出石川の洪水の到達時間が 1980 年代から短くなってきているのは、例えば六方川周辺等で工事がたくさん行われたために、結果的に短くなったと考えた方が妥当ではないかという気がする。(沖村委員)
- ・ 資料の 2-8 にある開発と洪水流量の変化のグラフだが、円山川でこのようなデータをつくることは可能か。(上田委員)
同じタイプのグラフを作るデータがないと思う。円山川流域では、新河岸川のように市街地が大きくなるというドラチックな変化は起きていないと思う。資料 3 に豊岡市の土地利用の変化があるが、流域全体でみるともっと平均化されて、変化が少なくなると思う。(川合委員・沖村委員)

4.4 その他

1) 一般からの意見について

- ・ 庶務に寄せられている一般住民からの意見が紹介され、今後の住民からの意見の求め方に関して、以下のことが了承された。

・ 今後、住民意見の反映方法について議論していくにあたり、ニュースレター、ホームページ等の広報手段を通じて、一般住民からの意見を募ってゆく。

2) その他

- ・ 第 9 回委員会について、以下のことが了承された。

・ 第 9 回委員会は、4 月後半に開催することとし、ヒアリング結果を踏まえて、今後の進め方等について議論を行うこととする。

- ・ 委員長より、一般傍聴者に対して意見・質問等が求められ、河川の整備計画ではバランスに気をつけ、実施にあたっては公平公正に進めなくてはならないという意見や洪水時に問題となりそうな橋梁の存在、また本川で最も堤防幅の狭い地点の整備等に関して質問があった。